

平成26年度 環境生活委員会行政視察報告書

環境生活委員長 滝沢 健一

視察日：平成26年8月20日（水）～21日（木）

視察都市及び視察項目

1. 鳥取県境港市：にぎわいを創出するまちづくり
水木しげるロードによる観光振興について
2. 島根県出雲市：定住人口の取り組みについて
いずも空き家バンク
住宅建築・リフォーム補助
固定資産税の課税免除

1日目 鳥取県境港市

鳥取県の西の端に位置する境港市は人口約3万6千人の小さな町で基幹産業である漁業では、特定第3種漁港に指定されており、平成4年から平成8年までの5年間は水揚げ量が日本一となりました。現在でも生のクロマグロ、カニの水揚げ日本一を誇っております。

今回、中心市街地活性化策として全国でも先進的な事例であります、水木しげるロードを視察に行ってきた。境港市出身の水木しげる氏の代表作品である「ゲゲゲの鬼太郎」を核とする賑わいの創出づくりである。私自身、現地に行くまではキャラクターを取り込んだだけで街が変わるはずもないのではとの思いがあったが良い意味で予想を覆された。

平成元年から始まった「緑と文化のまちづくり」をテーマにJR境港駅から商店街を結ぶ目抜き通りに水木しげる氏のマンガに登場する妖怪のオブジェやモニュメント、絵タイルを歩道に設置し、人々に優しく、親しまれる快適な道づくりとしての事業であった。当初は市民に歩いていただくことだけを考えていたが、マスコミに大きく取り上げられるなど、大きな反響があり、その結果、全国から多くの観光客が訪れる名所へと発展していったようだ。私たちが視察した日も平日にもかかわらず人の流れがあり、商店が商店として働きを全うしているように思えた。

人がたくさん集まることから空き店舗になっているところやシャッターがしまっているところもない。これはこの地域の商店主が営業時間や定休日などみんなで統一をし、お客様をもてなす気持ちの表れでもあるだろう。仮に空き店舗ができて新規参入者で直ぐに埋まる状態であるという話も伺えた。

元々、境港市は観光が盛んな土地柄ではなかったが水木しげる氏の「ゲゲゲの鬼太郎」を使って今では全国でも有数の観光地に発展していった。平成22年にはNHKの連ドラ「ゲゲゲの女房」の影響もあり、年間入込客数約370万人も水木しげるロードに来たというデータもある。市の人口が約3万6千人であるから、市の人口の100倍もの人が水木しげるロードに脚を運んだことになり、1日当たりに置き換えると約1万人もの人が水木しげるロードに脚を運んだことになる。そしてこの人たちが買い物客としてのターゲットになるのだから物凄い事である。

地域活性化における行政の役割は人を呼び込むことである。その先の商店の売上は企業の努力である。ここまでに至るには様々な思いがあったであろう。当時の市長の熱い思いが現在の水木しげるロードであり、現在の境港市なのだろう。多額の予算を使って進める事業であり、未知数の事業であったためになかなか理解されなかったようであるが、信念の元に推し進めていった市長の政治手腕にも感銘を受けた。

当市では現在ヤフージャパンのご当地飯決定戦において「龍ヶ崎コロッケ」で全国の頂点を目指している。たかがコロッケ、されどコロッケである。当市でもこのコロッケを活用して街の賑わいづくりが出来ないか真剣に考えさせられる視察であった。我が龍ヶ崎市にも出来ないはずはない。

2日目 島根県出雲市

出雲市は、日本海、宍道湖に面し、斐伊川、神戸川により形成された出雲平野を中心として、北部は国引き神話で知られる島根半島、南部は中国山地で構成される水と緑豊かなまちです。

出雲市では、縁結び定住課内に「出雲市定住支援センター」を設置し、出雲市での暮らしを考えておられる方からの相談に対応しています。その柱として、空き家バンク、住宅建築・リフォーム補助、固定資産税の課税免除があります。

まずはじめに空き家バンクについてであります。市の定住支援ホームページで、市内の空き家・空き地の賃貸・売買情報を提供。定住支援センターが窓口となり、空き家の所有者に空き家活用の広報・募集を行い、出雲市での暮らしを考えておられる方々へ情報発信し定住に繋げるという取り組みであります。取り組みを始めた平成19年から平成25年の実績として家屋の登録63件中55件の成約、土地の登録28件中17件の成約となっております。

次に住宅建築・リフォーム補助・固定資産の課税免除についてであります。出雲市に定住する目的で住宅を建築・購入・リフォームする場合に助成金を支給する制度であります。一般地域と過疎化の進む重点支援地域とに分かれ、固定資産税・都市計画税を5年間助成するというもので、一例を挙げますと重点

支援地域に新築住宅を購入又は建築した場合、上限を15万円として税金を5年間助成する仕組みです。平成20年から平成25年の実績として49件の新築住宅が建てられ定住に結びついたという事例であります。

出雲市の定住人口の取り組みにより平成25年度までに約100世帯の定住人口の増加につながった。当市においても定住人口の創出は課題の一つであり、今回の視察内容を再度検討し、龍ヶ崎市の定住人口増に向けた取り組みにつなげたい。